

主要産地における水稻の生育状況について

7月29日に関東甲信地方、7月31日に東北北部地方が梅雨明けとなった。関東では平年より8日遅く、東北では平年より3日遅い梅雨明けとなった。梅雨が明けるといきなり30℃を超す猛暑日となり身体がついていけない日々が続いたが、暑さ寒さも彼岸までとはよくいったものでお盆を過ぎたあたりから気温も落ち着き、既に空には赤とんぼ、夜には秋の虫たちが音色を奏で始めている。

そろそろ早生品種の作況指数が農水省より発表される頃となったが、北部九州・山陽地域においては秋雨前線が線状降水帯となって短期間に局地的な豪雨をもたらした。佐賀県の一部の地域では河川が氾濫して床上浸水するなど甚大な被害が発生している。関東・東北太平洋側地域では前号でお伝えしたように長梅雨の影響で日照・気温が平年を下回り5月20日を境に20日よりも前に移植したイネ

は生育が順調、一方遅く移植したイネは分けつが少なく生育差が出ているようだ。7月末の全国の主要稲作産地における現況を一覧にしたのでご参考にしていただきたい。既に出穂期を過ぎて秋田県など自治体によっては出穂後の穂数、1穂粒数、 m^2 当り粒数が発表されている。各県統一した基準の報告ではないため別表に取りまとめたものの見にくいかも知れないがご容赦いただきたい。各地の作況は以下の通り。北海道は一部の地域を除いて平年並み～生育が早く推移。東北地方太平洋側は草丈が短いものの茎数・葉色は並～多い。東北地方日本海側は草丈が短い、東北太平洋側よりも茎数が多く葉色は平年並からやや薄い。関東・東山地方に移ると低温・日照不足の影響で生育は遅れが目立つ。北陸地方は草丈が短いものの茎数は平年並み～多く、葉色は平年並みで生育は早まっているようだ。9月以降の長期予報の天気を見ると前半は高温に推移し、降水量はほぼ平年並みの見込みを予想している。日本海側は生育が順調で茎数が取れているため出穂期までに追肥をしっかりと行った生産

(次ページへ続く)

東日本主産地における水稻の生育状況について						
都道府県	地域	品種	草丈	㎡分けつ数	葉色	データ公開日
北海道	全道	平年並～やや早い生育				8月20日
青森	黒石	つがるロマン	短	1.3本多	－	7月20日
	黒石	青天の霹靂	短	2.2本少	－	
岩手	北上	全品種	短	平年並み	平年並み	7月25日
	軽米	いわてっこ	短	平年下	平年上	7月26日
宮城	県全体	全品種	短	平年上	平年上	7月22日
秋田	北秋田	あきたこまち	平年比96	平年比97	平年比102	7月26日
	秋田	あきたこまち	平年比98	平年比103	－	
	平鹿	あきたこまち	平年比90	平年比104	－	
	由利	あきたこまち他	平年比97	平年比94	－	
	山本	あきたこまち	平年比95	平年比114	平年比88	7月25日
	鹿角	あきたこまち	平年比88	平年比110	平年並み	7月19日
	仙北	あきたこまち	平年比93	平年比120	平年比96.2	7月25日
山形	全県	はえぬぎ	短	やや多	平年並み	7月19日
		つや姫	短	やや多	平年並み	
		雪若丸	短	多	指標値並み	
福島	郡山	全品種	短	多	並～やや濃	7月18日
	会津		平年並	平年より少	葉色濃	7月2日
	相馬		短	多	品種バラつき有	7月5日
栃木	全県	コシヒカリ	平年比91	バラつき有	やや薄	7月19日
		あさひの夢	平年比79	平年比84	やや薄	
茨城	水戸	あきたこまち5日遅	コシヒカリ7日遅	ふくまる5日遅		7月19日
	龍ヶ崎	あきたこまち9日遅	コシヒカリ9日遅			7月22日
千葉	全県	低温・日照が続き全品種平年比3～4日遅れ				7月25日
新潟	佐渡	コシヒカリ	多	多	濃	7月18日
	岩船	コシヒカリ	並～やや短		並～やや薄	7月25日
	南魚沼		平年比97	平年比105	やや濃	
富山	全県	コシヒカリ	並	やや多	並	7月17日
		てんこもり	並	多	並	
		富富富	並	やや多	並	
石川	全県	ゆめぴづほ	2～3日生育早い			7月18日
		コシヒカリ	加賀4日早い 能登3日早い (平年比)			
		ひやくまん穀	加賀4～6日早い 能登3日早い (平年比)			
長野	全県	あきたこまち	短	少	－	7月19日
		コシヒカリ	短	少	－	
		風さやか	短	少	－	

者が勝者となる可能性は高い。

一方で東北地方太平洋側はヤマセ等懸念されていたが、幼穂形成期以降は気温が高くなり登熟期で生育が追い付くことが出来れば平年作まで回復出来るだろう。関東では茨城・千葉の早生品種の収穫がスタートしているが平年よりも5日程度収穫期が遅れ収量の方は平年作よりも半～1俵落ちといった報告が入ってきている。昨年は生育前半が高温で推移したものの後半は天候不順により登熟が低下し作況指数が97となってしまうと全般的に米価が上昇する事となった。今年は今の所全般的に見ると平年作で仕上げられたら上々といったところだろうか？今年の水稲主産地では移植時期や移植後の生育中期による天候不順の影響により生産者・地域毎に収穫量がバラつく可能性がある。9月9日に台風15号が千葉県に上陸、遅れていた収穫ピークの千葉・茨城のコシヒカリがまともに直撃を食らってしまった。神奈川・千葉・埼玉・茨城の収穫期を迎えた水稲は台風襲来直前まで収穫に迫られていたものの作業が追い付かず倒伏してしまっている。今後の作況が気になるところだ。生産者は最後に収穫したイネを米袋に入れるまでは気の抜けない日々となっている。コメを扱う業者にとっても毎日天気予報とにらめっこしながら天候動向をチェックする日々が続くだろう。今年の作況はどうなるか？もう直ぐ収穫の秋だ。いつの年も豊作を祈ってやまない。

ツルっと冷たいそうめん！九州有名どころ！

夏の疲れが出るこの時期は食欲増進のためにツルっと冷たいそうめんが食べたくなりますね。素麺の産地は日本全国にあるが、昔からの産地は西日本が中心となっている。メーカーによって特徴は異なり、長さや太さ、コシの強さ、手延べや機械式といった製法の違いがある。東北地方で有名なのが卵麺、白石温麺、稲庭素麺。中部地方では大門素麺、和泉素麺、大矢知素麺。近畿地方では、播州素麺（揖保乃糸）、三輪素麺。中国地方では、備中素麺。四国地方では半田素麺、小豆島素麺、五色素麺。九州地方では神埼素麺、島原素麺、南関素麺があり全国各地で有名なそうめんが存在する。

手延べそうめんの都道府県別生産量上位6県（兵庫、長崎、奈良、香川、徳島、岡山）で約94～97%を占めている。第一位の産地は兵庫県（約45%）。播州素麺が有名で、「揖保乃糸」と言えば誰もが知っている商品名ではないだろうか。第二位は長崎県（約30%）。島原素麺という名前もかなり多くの方に知られている事と思う。第三位の奈良県（三輪）は、そうめん発祥の地と言われている。このように全国の主なそうめん産地の多くは、良質な水と小麦に恵まれていた事で、そうめん作りが発達したようである。

夏の風物詩「流しそうめん」と「そうめん流し」で地域によって呼び名が違うのを皆さんがご存じだろうか。流しそうめんと言えば、半分に分けた竹を繋げて上流からそうめんを流し、すくって食べるスタイルが一般的ではないだろうか。ここ九州での呼び名は「そうめん流し」。しかもそうめんの流し方としては、丸い円状の容器を用いて水を流し、流したそうめんをすくって食べるスタイルである。この起源とされているのが、鹿児島県指宿市の唐船峡である。ここは名水百選にも選ばれている（唐船峡京田湧水）。豊富な水量、水温約13度ととても冷たい水を流しながら、そうめんを食べるというものだ。因みにそうめん流しと回転式のそうめん流し器の発祥の地と言われている。年間多くの旅行客が訪れ、非常に人気スポットとなっている。そうめんと聞くと夏のイメージしかないが、ここではオールシーズン冷たいそうめんが食べられる。部屋の中で暖を取りながら、冷たいそうめんを食べるのも良いのではないだろうか。（福岡支店）



静岡～関東を直撃した台風15号の影響は各地に大きな爪痕を残しました。被害に遭われました方々には心よりお見舞い申し上げます。

集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>